

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人神戸大学（案）

1 全体評価

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、社会科学分野・理科系諸分野双方に強みを持つ特色を発展させ、「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学」への進化を目指している。第3期中期目標期間においては、先端研究の臨場感のなかで創造性と学識を深め、地球的課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出すること、文・理の枠にとらわれない先端研究を推進し、他機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開すること、海外大学と重層的な交流を図り、世界から優秀な人材が集まり、飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を高めること、これらの教育研究を社会と協働して推進し、社会還元することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、乳がん健診を革新する画像診断システムのプロトタイプ機の開発に成功し、神戸大学発ベンチャー企業によって社会実装化を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

これまでの神戸医療産業都市における産学官連携の取組が評価され、「地方大学・地域産業創生交付金」において「神戸未来医療構想」が採択されており、神戸医療産業都市において、医療機器開発のエコシステムを開発するため医学部附属病院国際がん医療・研究センター（ICCRC）や統合型医療機器研究開発・創出拠点（MeDIP）に産学官連携による実証拠点を整備し、産学官医連携によるオープンイノベーションを創出することを目指している。（ユニット「イノベーション創出に向けた研究の拡充」に関する取組）

認知症予防プロジェクトにおいて、兵庫県・丹波市と健康寿命延伸に関する協定を締結し、大学・兵庫県・丹波市が共同し、丹波市民に対して運動・認知機能に関する住民調査を行い、既存データと突合して長期観察を行う丹波コホートプログラムを開始している。（ユニット「イノベーション創出に向けた研究の拡充」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

・ 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

政策的・専門的業務に従事する高度専門職の確立

「政策研究職員」制度において、長期的な視点で職員を配置するとともに、高度な専門知識で適切に業務を遂行できる環境を整備しており、政策研究職員が中心となって各部署のミッションの達成に取り組むことで、IR分野においてはエビデンスに基づく計画立案体制が構築され、留学生の受入・派遣人数の増加等につながっている。令和元年度には、職位を増やすことで政策研究職員としての長期的なキャリア構築ができる体制を整備している。

AIによる相談窓口の設置

授業料・入学料免除、奨学金に関する質問に対応するため、AIによる相談窓口を設置したことで、問合せへの対応時間を約46時間削減できたことに加えて、質問内容を電子データとして蓄積することが可能となっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

土地の有効活用

楠団地（病院・医学部地区）において、地域における医療体制の充実と高度な地域医療サービスを適切に提供していくために、地区計画制度を活用し容積率の上限を緩和する手続を進め、神戸市における容積率緩和の条例改正につなげた結果、資金を投じず新たに14,000㎡相当の土地を取得するのと同様の効果を得られることとなり、狭隘化によるスペースの課題を解決し、多様な医療ニーズに対応していくことが可能となっている。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

「マイクロ波マンモグラフィ」の開発

従来の技術では画像化が不可能な高濃度乳房の腫瘍も診断可能となる世界初の画像診断システム『マイクロ波マンモグラフィ』のプロトタイプ機の開発に成功している。これは、従来のX線マンモグラフィが持つ、撮影時の痛みやX線による人体への影響がないだけでなく、腫瘍の見落としもない革新的な医療機器であり、治験・装置製造・世界展開を担う大学発ベンチャー「株式会社Integral Geometry Science」により社会実装を加速させている。

附属病院関係

(教育・研究面)

臨床研究の推進

令和元年度日本医療研究開発機構(AMED)「次世代医療機器連携拠点整備等事業」に採択され、臨床現場において医療機器開発に携わる企業研究開発者や工学研究者のための教育研修プログラムや、ニーズ情報と開発品シーズ情報を一元管理する体制整備を行うなど、臨床研究を推進している。

(診療面)

医療安全管理体制の強化

「総合的質管理委員会」において、病院機能評価受講準備ワーキンググループを立ち上げ、説明書・同意書の統一様式を定めて現行様式を順次変更するなど、質改善を進めるとともに、医療の質・安全管理部の医師1名を専任から専従とし、外国人患者への医療安全管理体制を整備するため、医療安全管理委員会にインターナショナル・メディカル・コミュニケーションセンター長を新たに加え、さらに、臨床研究に関する安全管理担当者を新たに加えるなど、医療安全管理体制を強化している。

(運営面)

地域医療機関のベンチマーク分析等を通じた地域医療貢献

副病院長を室長とした情報分析推進室を設置し、関係病院のうち43病院からDPCデータの提供を受け、各種オープンデータと合わせて地域における医療提供状況の可視化、及び臨床指標のベンチマーク分析等を行うことにより、県内のシンクタンク機能としての役割を果たし、関係病院のみならず県内における医療政策及び病院経営分析に大きく貢献している。

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人岡山大学（案）

1 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」の理念を高く掲げ、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」という目的を定めている。第3期中期目標期間においては、世界のリーディング大学に伍して、徹底したガバナンス改革の下、国際社会や地域と連携した教育、異分野融合科学や医療等を中心とした研究、並びに社会貢献の全ての分野で、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、優秀な若手研究者のポストを確保し、研究力の強化と若手研究者の活躍機会創出のための施策を「若手研究者育成支援パッケージ」として取りまとめるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

夏期集中科目として、受入先（山陽新聞社、公益財団法人福武教育文化財団、岡山市立岡山後楽館高校、一般社団法人SGSG）が具体的な課題を提示し、学生はその解決のための活動を行い、成果を上げることが求められる就業体験型学習「桃太郎・桃子チャレンジ」を開講している。（ユニット「世界で活躍できる「実践人」の育成」に関する取組）

グローバル人材育成院において、ライデン大学日本語日本文化研修プログラムを実施し、24人の受入れを行っており、学生アンケート結果を踏まえプログラムの改善・充実を行った結果、次年度プログラムの応募者が増加したことに加え、米国国務省・重要言語奨学金（CLS）プログラムのパートナー校として全米トップクラスの大学生・大学院生26名を受け入れ、アメリカン・カウンシルから最終評価として5段階で「3.92」という高評価を得ている。（ユニット「世界で活躍できる「実践人」の育成」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

・ 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開等や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

研究准教授制度、若手研究者育成支援パッケージの新設

論文、外部資金獲得等において優れた実績を有する研究者（講師、助教）のモチベーションを高め、研究代表者として一層活躍することを促進するため、現行の研究教授に加え、新たに研究准教授の称号付与制度を創設するとともに、優秀な若手研究者のポストを確保し、研究力の強化と若手研究者の活躍機会創出のための施策を「若手研究者育成支援パッケージ」として取りまとめている。

国際研究拠点の形成と若手研究者の育成

平成30年度に発足した学長主導の「大学改革促進のための国際研究拠点形成プログラム（RECTOR）」において、海外から第一線の研究者（海外PI）を招へいし、当該研究者の研究室に若手研究者をテニユア・トラック制度で採用することで、世界を先導する研究プロジェクトを推進し、国際研究拠点を形成するとともに、グローバルに活躍できる若手研究者を育成しており、令和元年度末までに、3名の海外PIを招へいするとともに、若手研究者を採用し各海外PIの研究室にそれぞれ配置している。

共同利用・共同研究拠点

災害復旧による共同利用・共同研究の強化

惑星物質研究所では、平成28年の鳥取県中部地震による被害により、共同研究者受入れの一部制限を行っていたが、研究基盤の復旧が完了し、一部制限を解除しこれまで以上に共同利用・共同研究を推進している。また、アストロバイオロジーとサンプルリターンミッションの回収試料の分析に必要な研究基盤の整備を実現し、新たな学術研究を進展させている。

附属病院関係

（教育・研究面）

看護師特定行為研修の実施

令和元年6月に看護師特定行為研修実務者会議を立ち上げ、指定研修機関申請のための検討を重ね、令和2年2月に厚生労働省より指定研修機関の指定を受けるとともに、5区分8行為の術中麻酔管理領域パッケージ研修及び12区分15行為の外科術後病棟管理領域パッケージ研修の認定を受け、看護師特定行為研修室の整備やe-learning等の研修環境を整えるなど特定行為研修の実施に向けて取り組んでいる。

（診療面）

人工知能（AI）による糖尿病性腎症の自動判断ツールの開発

蛍光画像からは診断が困難な糖尿病性腎症を、AIにより100%の確率で診断できる診断ツールを開発し、将来、AIが人間の目では気付きにくい糖尿病性腎症の診断補助ができる可能性があるなど、質の高い医療の提供のため、開発に取り組んでいる。

不明熱外来の開設

病因が明確でなく原因不明のまま発熱が続き、診療が複雑な不明熱に特化した外来を開設し、診療体制の整った環境で体系的に診断・治療を行い、専門的な検査や総合内科・総合診療科を中心とした複数の診療科で連携する体制を整備している。

(運営面)

病院職員の働き方改革

医師・歯科医師の勤務時間管理については、「勤務時間管理兼超過勤務命令簿」の様式を変更することで、自己研鑽活動の時間も含めて全ての在院時間を把握し、適正な勤務時間管理が可能となるとともに、客観的な方法による勤務時間管理を行うため、位置情報を基に、スマートフォンを利用した新たなシステムを令和2年度に導入するため、運用方法の整備やシステムのトライアルを実施するなど、病院職員の働き方改革を推進している。

在宅勤務、ダイバーシティ推進センターの設置を通じた医師等の処遇改善

ダイバーシティ推進への取組として、ダイバーシティ推進センターを設置し、育児・介護等のライフイベントと勤務を両立できるような柔軟な働き方を取り入れ、キャリア支援に取り組むとともに、放射線科医師を対象に、画像診断システムを利用した在宅勤務制度を導入するなど、医師等の処遇改善を推進している。

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人広島大学（案）

1 全体評価

広島大学は、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、伝統と実績を活かした教養教育及び世界トップレベルの研究に裏打ちされた専門教育を根幹に「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」を持続的に輩出し、「100年後にも世界で光り輝く大学」となることを目指している。第3期中期目標期間においては、世界大学ランキングトップ100に入る総合研究大学になるべく、国際水準の教育研究の展開に向けて、「広島大学改革構想」の着実な実行により、「大学改革」と「国際化」を大胆に推進し、世界に通用するリーダーを育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、多様な財源を活用した整備手法により整備を実施しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

「地方協奏による世界トップクラスの研究者育成(HIRAKU-Global)」が文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」に採択され、これまでのテニュアトラック制度等人事制度改革及び教員組織の学術院への一元化や融合研究を促進する研究科再編等の組織改革と、若手研究者の研究環境整備等研究力強化の取組を一体的に行うこととして、若手研究者育成のための体制整備及び育成プログラムの開発に着手している。（ユニット「世界大学ランキングトップ100を目指す取組」に関する取組）

令和元年度入試より「みなし満点」（英語外部検定試験の成績等が基準を満たしている場合、センター試験の「外国語（英語）」の得点を満点とみなす）制度を導入し、ウェブサイトにおいて「みなし満点」制度の継続を含む全ての入学者選抜における英語民間試験の具体的な活用方法を公表している。（ユニット「世界大学ランキングトップ100を目指す取組」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

多様な財源を活用した整備手法による整備

企業からの寄附等により、多目的ホール「福山通運小丸賑わいパビリオン」(159㎡)やサッカーグラウンド「東広島ドリームフィールド」(人工芝舗装7,883㎡)の整備を行っている。さらに、世界トップレベルの外国人研究者や留学生を受け入れるための国際交流拠点を整備するため、東広島市から5億円の支援を受けることが決定し、自己資金10億円と合わせて国際交流拠点施設(約4,000㎡)の契約を締結し整備に着手している。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

研究活動における不正行為

教育学研究科に在籍する大学院生において、研究活動上の不正行為(盗用)を行っていた事例があったことから、学生への研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

研究費の不適切な経理

研究費の不適切な経理が確認されていることについては、原因を究明して対策を講じるなど、再発防止に向けた取組が行われているが、引き続き再発防止に向けた積極的な取組を行うことが望まれる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

世界的な研究拠点の展開

令和元年度に、教育プログラムと連携し大学院生が参画する超学際的な国際異分野融合研究教育拠点「最先端国際プロジェクト」を新たに創設し、「広島大学医療経済研究拠点」を認定していることに加えて、学内外の多様な機関とのネットワークを構築することにより国際共同研究及び異分野融合研究を進めていく連携研究拠点制度を新たに整備し、国立研究開発法人理化学研究所との連携・協力を推進する「広大・理研連携研究拠点」を設置している。

共同利用・共同研究拠点

大学共同利用機関法人との連携による共同研究の推進

放射光科学研究センターでは、自然科学研究機構等との共同研究により、放射光の時間構造を利用した原子の量子状態制御について、2件のプレスリリースを行い、新聞等で取り上げられている。また、マスタープラン2020（日本学術会議）に「放射光学術基盤ネットワーク」が選定されており、これまで以上に関係機関との連携強化に関する検討を進めている。

附属病院関係

（教育・研究面）

海外機関との国際交流の推進

大学と国際協力機構（JICA）が協力して実施する草の根技術協力事業「カトマンズと周辺地域におけるてんかん診断能力向上及び地域連携強化事業」により、ネパール人医師を研修のため受け入れるとともに、エジプト留学生短期受入プログラムの医学生を受け入れ、「ダヴィンチ」を実習・見学させるとともに、新型コロナウイルスに関する特別講義を受講させるなど海外機関との国際交流を推進している。

（診療面）

小児がん領域におけるがんゲノム医療の推進

令和元年9月にがんゲノム医療拠点病院に指定され、がんに対する最先端の診療を提供していく体制の整備を行い、また、中四国で唯一の小児がん拠点病院として連携病院とのネットワーク構築を継続していることから、小児がんの領域でもがんゲノム医療による新しいがん診療を推進している。

ひろしまDMステーションの設置

糖尿病の医療連携を進め診療レベルの向上と均一化を目指して、「ひろしまDM ステーション」を設置し、広島県の地域医療介護総合確保事業の補助金を受け、糖尿病専門医らが不足しがちな地域の患者へIoTやICT技術を活用し、電話による生活指導を行う「遠隔医療」と、現地の医療機関にスタッフを派遣して助言等を行う「デリバリー医療」に取り組んでいる。

(運営面)

医療安全管理部門体制の強化

安全で質の高い医療の提供に資するよう、医療安全管理部門に新たに教授を配置するなど、医療安全管理体制を強化している。

女性医師のキャリア継続支援

厚生労働省の女性医師支援事業の実施機関として、平成29年度及び平成30年度に続き3年連続で選定され、女性医師のキャリア継続支援に取り組んでいる。

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人九州大学（案）

1 全体評価

九州大学は、自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証し、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となることを基本理念に掲げ、九州大学アクションプランの実現に向けて躍進することを目指している。第3期中期目標期間においては、強み・特色を持つ研究分野を軸とした先端・融合研究や卓越した学術研究の推進、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材の育成、高度な医療の提供等による地域医療・国際社会への貢献、世界最高水準の教育・研究・診療を支える環境・基盤の整備、自律的改革の推進と機能強化、産学官民の強力な連携による地域創生への貢献等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、優れた研究業績を有する将来有望な女性・若手教員を世界と伍して戦える真に実力のある教員として育成する「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修（SENTAN-Q）」を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

アジア・太平洋地域に対し情報を発信し、当該地域の大学との関係の強化やプレゼンスとレピュテーションの向上を図ることを目的として、「QS-APPLE2019」を日本国内で初めて開催しており、QS社におけるランク付けにおいて、ホスト校を務めたことによる大きな効果が期待される。（ユニット「スーパーグローバル大学創成支援の事業推進」に関する取組）

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）研究拠点としての10年間の研究成果と組織運営の実績が認められ、I²CNERがWPIアカデミー拠点としての認定を受け、令和2年4月よりWPIアカデミー拠点としての活動の開始を予定している。（ユニット「大学の戦略的システム改革におけるI²CNERの機能強化」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

学術推進職の創設と活動

国際広報やIR業務等、大学の学術活動の推進に必要な分野に、高度かつ特殊な専門性を持った多様な人材を確保するための雇用制度を創設し、高度専門職員の職種の一つとして学術推進職を創設している。令和元年度には、サイエンスコミュニケーターとして国際広報に関わる外国人の学術推進准主幹やIR業務担当者として学術推進専門員を雇用し、それぞれの能力を生かして国際広報や執行部意思決定支援で活躍している。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

入学者選抜における出題ミス

令和2年度前期課程入試における出題ミスが発生したことにより追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

土壤汚染対策費の支出抑制

移転跡地の土壤汚染対策に係る支出抑制の取組として、跡地処分統括室土壤汚染対策部門の研究・開発チームが、土壤汚染対策工事の受注者との共同研究により汚染土の高度な浄化技術を確立することで構外搬出量を抑制している。水銀汚染土については、浄化基準の6倍が浄化可能限度であった従来 of 土壤洗浄技術に対し、令和元年度時点では40倍までという飛躍的な成果を上げ、その研究成果を対策工事に取り入れて対策費の縮減に大きく寄与するとともに、環境負荷の軽減にもつながっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等 広報・同窓生

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

省エネルギーへの取組

新たな省エネルギー活動として、経済産業省が提唱する「デマンドリスポンス()」を契約し、令和元年9月に2日間の運転要請に応じて、電力会社からの供給電力量を約4,900kWh削減し、対価として約248万円の報酬を得ている。

電力需給の逼迫が予想される時間帯において、電力会社や事業者の要請に応じ、自家発電設備を稼働させることによって、九州電力管内の系統安定及び電気の需要平準化による省エネルギー活動に参加するものであり、対価として報酬が支払われる仕組み。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

女性及び若手教員の活躍促進

世界トップレベルの海外講師による直接指導を含む国内及び海外研修において、世界トップレベルの研究教育力を実践的に身に付けることや女性及び若手教員の管理職への登用を促すことを目的として、優れた研究業績を有する将来有望な女性・若手教員を世界と伍して戦える真に実力のある教員として育成する「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)」を令和元年度より開始していることに加え、女性枠設定による教員採用・養成システム、配偶者帯同雇用制度、男女別・職位別論文業績分析による女性研究者の研究力の定量的な検証・可視化及び国際会議での発信等の取組が評価され、第1回輝く女性研究者活躍推進賞 (ジュン アシダ賞) を受賞している。

共同利用・共同研究拠点

アレルギー防御学分野等の新設による研究体制の整備

生体防御医学研究所では、アレルギー防御学分野等3分野を新設して附属システム免疫学統合研究センターを整備し、3研究部門2附属施設の研究体制が構築されたことで、関連部局と連携して免疫難病やがん、アレルギー疾患に関する発症機構の解明と治療法・予防法の開発に取り組む体制が整い、国内外の研究者の生体防御に関連する研究を、多方面から支援する体制が強化されている。

数理計算インテリジェント社会実装推進部門の設立

マス・フォア・インダストリ研究所では、大規模な産学連携によって数学理論の社会実装を推進するため、IMIビッググラフ解析グループの母体である数学理論先進ソフトウェア開発室を発展的に改組し、数理計算インテリジェント社会実装推進部門を設立し、ソフトバンクグループとLP ガスやバイクシェアリングサービスにおける需要予測・最適配送計画策定を実施するなど、産学共同研究を一層強力で推進している。

研究力強化のための機動的な研究組織の設置

先導物質化学研究所では、ナノ材料に関する研究力とプレゼンスを強化するため、クロスアポイントメント教授 (海外2名、国内1名) 及び専任准教授 (1名) を採用し、国際コア・ラボラトリーを設置しているほか、物質・デバイス領域共同研究拠点を構成する5附置研究所を横断する研究グループ (横串サブグループ) を組織し、同研究所は界面近傍水に関する研究グループの中核を担っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

実用化を目指した医学研究の推進

ダイオキシン類の毒性を軽減する作用機序や漢方薬についての研究が進み、ダイオキシン類の毒性機構、その毒性を抑制する薬剤の探求を目的とした基礎的研究を継続して実施し、ダイオキシン類の毒性を軽減する方法を見いだすきっかけとなる重要な知見が得られ、カネミ油症の症状緩和につながる成果を得るなど実用化を目指した医学研究を推進している。

(診療面)

国際医療に関する取組

国際遠隔医療教育ネットワークの拡充に取り組み、計71か国の812施設と連携し、連携国内の技術者養成及び医療スタッフ間の連携強化のため、遠隔医療ワークショップを各国で開催、また、令和元年度にミャンマーにおける医療の均霑化を目指した人材育成事業（医療技術等国際展開推進事業）に新たに採択され、さらに、丸紅株式会社と共同で実施する厚生労働省の日露医療協力推進事業の推進、4月に設立したアジア・オセアニア研究教育機構においては国際医療部が医療クラスターの長として参画するなど、医療の国際化を更に展開している。

(運営面)

外国人患者受入に関する取組

外国人患者数の増加に伴い、令和元年12月に外国人患者受入医療機関認証制度(JMIP)の更新受審を行い、組織体制や通訳・翻訳体制について高い評価を受けるとともに、項目別評価においては△評価（部分的に適切）が前回受審時の10項目から4項目に減少するなど、前回受審時よりも高い評価での再認定（令和2年1月）を得ている。